

コード No.17-NPF-001

提出日：平成30年5月18日

平成29年度「子ども被災者支援基金保養支援事業」報告書

一般社団法人子ども被災者支援基金
代表理事 鈴木 理恵

1. プログラムの目的

2016年の活動結果から、保養団体に対し資金援助という直接的な支援の他、研修会の開催や情報交換、意見交換といった間接的な支援を実施し、中間支援と言われる活動を強化する。各保養団体に対しては、資金援助だけでなく、共に保養を作り上げるという寄り添う形でフォローし、保養団体のスキルアップを図ると共に、保養の質の向上という大きな目標の実現を図る。そして、各保養団体の活動が福島の子どもの健全な育成に資するものとなるようにし、保養活動の社会性を向上させる。

2. 主な活動内容・スケジュール

① パートナー事業

保養プログラムの質の向上を目的に、各保養団体のプログラムの特徴や長所短所を把握すると共に、課題の抽出と解決を図るため、その意思を持つ団体が当団体の支援を優先的に受けられるように、特定の強い関係性を保つようパートナーシップ制度を継続した。

2017年度パートナー団体募集時期

説明会開催：2016年1月21日岡山、大阪 22日東京

募集期間：2016年1月23日～2月13日

パートナー登録団体

2016年度から更新 12団体

2017年度新規登録 14団体

計26団体

助成金の交付先のモニタリングも兼ね、17団体の保養の現場を視察し、関係者との意見交換を行った。また、いくつかの団体を抽出し、保養プログラムが終了した後、モニタリングの振り返りを行うため、フィードバック訪問を実施、その団体が抱える課題について突っ込んだ話し合いができた。

更に、2017年度のパートナー団体の募集は前年度に説明会を行い、前年度中に申し込みを受け付けたが、2018年度のパートナー団体の募集は17年度中に説明会を行い、登録は18年度に入ってから行った。

2018年度パートナー団体募集時期

説明会開催：3月4日金沢 3月10日岡山、京都
 3月17日札幌 3月18日郡山、東京
 募集期間：2018年度4月10日から

パートナー登録団体
 2016年度から更新 5団体
 2017年度から更新 10団体
 2018年度新規登録 9団体
 計 24団体

② 助成金事業

今年度は一般枠1団体あたり20万円を6団体、要配慮者参加奨励金30万、合計150万の予算計上を行った。

一般枠については、選考委員会で甲乙つけがたく、一部減額による採択も採り入れ、8団体に対し総額115万の助成となった。また各団体のプログラム終了後、配慮を必要とする子どもが参加した場合の追加交付の募集を行い、4団体11万円を支出した。

助成金交付結果

団体名	採択額	要配慮者枠	合計
福島の子ども達を守る会北海道	20万		20万
子どもを応援する会ほんわか	20万		20万
子ども保養プロジェクト練馬	20万	2万	22万
殿下被災者受入委員会	15万		15万
ウエルカムかさおか	15万		15万
アップル	15万		15万
福福の会	5万		5万
南紀おたすけ隊	5万		5万
福島の子ども達とつながる宇部の会		5万	5万
たかつき保養キャンプ		2万	2万
東はりまゆるわくキャンプ		2万	2万
計7団体	115万	11万	126万

③ 人材育成事業

昨年はスタッフ研修とコンプライアンス研修を1回の研修でメニュー分けする形で行ったが、どうしても団体の責任者クラスの方の参加が多くなったため、今年度はコンプライアンス研修とスタッフ研修を分けて実施し、参加者層を分けるよう工夫した。また、秋にやまがた絆の架け橋ネットワークの企画に乗るかたちで、小規模なスタッフ研修会を開催、直接保養参加者とふれあい、保養について語り合う場を設けた。

研修会実施日

コンプライアンス研修会：5月28日 東京
 参加者 パートナー団体 10団体 11名
 一般団体 1団体 1名
 計 11団体 12名

研修内容：旅行業法を中心とした保養に関連する法令の学習、旅行業法対策など

夏のスタッフ研修：7月8日 大阪

参加者 パートナー団体 4団体 5人
一般団体 1団体 4人
計 5団体 9人

研修内容：危険予知トレーニング、事例に学ぶ危機管理など

秋のスタッフ研修：11月3日、4日、5日 山形

参加者 パートナー団体 2団体 2人
計 2団体 2人

研修内容：避難経験者の1泊保養にスタッフとして参加、現在福島に住んでいる家庭の生の声を聞く場を設けた。

3. 助成を受けた活動の報告（様子がわかる写真等があれば貼付してください）



夏のスタッフ研修会 7月8日（大阪）：危険予知トレーニングでのグループ発表



モニタリングのため訪問：流しそうめんの準備中 8月3日ウエルカムかさおか

4. 活動の成果（成果物などがありましたらご紹介ください）

助成金の効果

採択総数	: 8団体+要配慮者追加交付4団体
参加者総数	: 171人（子ども136人保護者35人内要配慮者7名）
事業費総額	: 9,975,701円
助成金合計	: 1,260,000円
参加費徴収額	: 1,846,000円
総事業費に占める当基金の割合	: 平均 12.63%
総事業費に占める参加者負担の割合	: 平均 18.50%
参加者一人当たりの事業費	: 平均 58,337円
参加者一人当たりの参加費	: 平均 10,795円
参加者一人当たりの助成額	: 平均 7,369円
要配慮者の参加人数	: 7名 うち追加交付申請7名分
プログラムの平均宿泊日数	: 8.0日

昨年との比較

項目	2016年夏	2017年夏
採択団体数	7団体	8団体
参加人数 子ども	156人	136人
参加人数 保護者	24人	35人
事業費総額	8,039,613円	9,975,701円
助成金合計	1,860,000円	1,260,000円
参加費徴収額	1,370,500円	1,846,000円
総事業費に占める当基金の割合(平均)	23.14%	12.63%
総事業費に占める参加者負担の割合(平均)	17.05%	18.50%
参加者一人当たりの事業費(平均)	44,665円	58,337円
参加者一人当たりの参加費(平均)	7,614円	10,795円
参加者一人当たりの助成額(平均)	10,333円	7,369円
要配慮者の参加人数	16名	7名
プログラムの平均宿泊日数	6.4日	8.0日

助成団体が1団体増えたため、事業費総額も増えているが、参加者負担の割合も若干増えており、採択団体が福島から離れた団体に固まった傾向があると言える。昨年よりも助成額が下がったため、一人当たりの助成額は大きく減少し、数字的な見栄えはあまりよくないが、その分参加者の負担額が増えており、健全な方向には向かっているものと思われる。

5. 今後の課題

- ・助成金支出についてはNPF以外の資金調達先の確保
- ・研修会の見直し、保養開催前はどうしてもスケジュールが詰まりやすく、参加者確保が難しい
- ・事務局スタッフの更なるスキルアップ
- ・保養参加希望者と保養団体とのマッチングシステムの実現
- ・旅行業法をはじめとしたコンプライアンス遵守の啓蒙を促進
- ・保養活動の更なる社会性の向上

以上